

業種名	前年同月比				業種名	前年同月比					
	売上受注	取引条件	収益状況	業界の景況		売上受注	取引条件	収益状況	業界の景況		
食料品製造業	漬物	→	→	→	→	卸売業	肥料	↓	→	→	↓
	醤油・味噌	↓	→	→	↓		◎卸団地(津)	→	→	→	→
	豆腐	→	→	↓	↓		◎商業(鳥羽)	↓	→	→	→
	麺	→	↑	→	→		◎青果(松阪)	↑	→	→	→
繊維製品製造業	◎組紐(伊賀)	↑	→	→	→	小売業	自転車	↓	↓	↓	↓
	衣料縫製	→	→	→	→		家電	↓	→	→	→
	テントシート	↓	→	→	→		石油	↓	→	↓	↓
木材・木製品	→	↓	↓	↓	スポーツ用品		→	→	→	→	
紙・紙加工品	段ボール箱	↓	→	→	↓	商店街	◎熊野市	↓	↓	↓	→
	古紙	↓	→	↓	↓		自動車整備	↓	→	↓	↓
印刷	↑	→	→	→	サービス業	宿泊施設	↓	→	↓	↓	
窯業・土石製品	生コンクリート	↑	→	→		→	旅行業	↓	→	↓	→
	◎陶磁器Ⅰ(萬古焼)	↓	→	↓		↓	◎飲食業	→	→	→	→
	◎陶磁器Ⅱ(伊賀焼)	↓	→	→		→	警備業	→	→	→	↓
金属・一般機器・電気機器・輸送機器	鍍金	→	→	→	↓	建設業	総合工事業	↑	→	→	↑
	◎機械器具(四日市)	↑	→	↑	↑		内装工事業	↓	↓	↓	↓
	◎機械器具(久居)	↓	→	→	→		電気工事業	→	→	→	→
	◎機械器具(伊勢)	→	→	↓	→		◎水道工事業(四日市)	→	→	→	→
	◎電気機器(鳥羽)	↓	↓	↓	↓	運輸	トラック輸送	↑	→	→	→
	◎輸送機器(鈴鹿)	↓	→	↓	→		◎不動産(鈴鹿亀山)	→	→	→	→

↑…増加・上昇・好転 →…変わらず ↓…減少・下落・悪化 ◎…地域単位の組合

情報連絡一覧票

(三重県中小企業団体中央会・平成26年5月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製造業	食料品	豆腐	5月の総会において、消費税転嫁カルテルの締結を決定した。
		麺	昨年に比べると伊勢うどんの売上はやや落ちているが、知名度は益々上がっている。
	繊維工業	衣料	業況は特に変化は無く、販売価格は変わらず、商品は年々高い技術が必要とするようになり、大変厳しい状況である。
		テントシート	原油高などによる材料価格の値上げの話が聞こえてきている。
	紙・紙加工品	紙器段ボール箱	消費税引き上げによる前倒し納入分の影響で、5月も前年対比するとおおむね落ち込んでいる。ユーザーの製造計画としては、例年より増加となるとの情報が出ている。
		古紙	5月期の仕入高は、前年比段ボールは約98%（増減5%前後）、新聞チラシは約97%（増減5%前後）、雑誌等その他合わせて約99%（増減5%前後）といった中での推移がある。入荷状況の良し悪しが、組合員の取引先や集荷形態によって格差があるように思われる。中国向け輸出古紙価格は、量・価格とも一進一退の状況が続いている。
	窯業・土石製品	伊賀焼	5月は、連休に恒例の新緑伊賀焼陶器市を開催した。天候に恵まれたものの、ガソリンの高騰（昨年同期より10円高）や、消費税引き上げの影響を受け、伊賀焼伝統産業会館及び伊賀・信楽古陶館ともに売り上げは昨年比20%を超える減額となった。入館者数は、伊賀焼伝統産業会館は96人の減少であったが、入館無料の古陶館では100人の増加となった。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産量は、4月と同様ほぼ横ばい状況であったが、半導体関連の生産は好調であった。しかし、半導体の生産国によっては相変わらず不調といったところも見られたが、全体的には好調で夏場位までは続く見込みである。その他製品に関しては、少しずつ回復してきているものの、しばらくはこのまま推移しそうである。
	一般機器	四日市	仕事量は増加しており、今後も今以上の仕事量が期待出来る。しかしながら、原材料の高値、燃料代の高騰、円安、消費税増税など利益の確保が困難な状況が続く。
	電気機器	鳥羽	小康状態で受注生産量は2年前の非常に悪い状態に戻っている。大企業ばかりの好状況が目についている。
輸送機器	鈴鹿	前月同様、鈴鹿市内の大手自動車メーカーでは予定通りの生産調整があり、平日の稼働が1日分繁盛期の振り替えになった。当方の稼働も落ちたままであるが、見積もりの引き合いは以前よりも多くなっている。	
非製造業	小売業	肥料	本年度の秋肥（6～10月）は、大量消費地の中国やインドの景気等や、国際市況下落により、前期に比べると3%近く値下げされる。しかし、肥料原料の逼迫傾向は変わらず、世界的な人口増に伴い肥料の需要は増えることが見込まれ、安定価格とは言えない状況である。
		青果	野菜は地場産キャベツ等が順調に入荷しており、西瓜は愛知産が中心で価格は昨年並みである。
		自転車	各店とも4月に入るやほとんどの商品の動きが無いとの情報の中、25年度、国内の自転車製造・輸入動向が発表された。(1)国内生産台数96万2千台(対前年比95.2%)、(2)輸入台数793万3千台(対前年比93.3%)で、国内需要台数889万5千台(対前年比93.5%)となり、14～15年前の水準まで減少することとなった。原因としては、景気の動向以外には夏以降の原材料高騰による自転車価格の上昇や、少子化等によるものと思われる。また、電動アシスト車は国内生産44万台(出荷台数は44万6千台)で昨年比約15%の増加となり、今後も需要拡大が期待される。
	小売業	家電	5月も先月同様に売り上げの低迷が続いている。県内1部メーカー系列店で合同展示会を開催し、販売来場者数ともに目標及び前年同期を上回る実績があった。全般的には景気後退が進んでいる中、今月に入りテレビの画像の解像度が高い4K放送が始まり需要の期待が出来る。エアコンは梅雨明けの遅れと増税前の駆け込み需要のため、低調であった。
		石油	5月度の燃料販売数量については、前年対比96%前後の販売状況であった。各給油所の経営状況については、ウクライナ情勢の混迷から原油、天然ガスの供給が懸念され、WTI原油及び中東原油価格の高騰により、石油製品においては値上げの状況で推移しているが、周辺給油所の販売合戦により値上げが出来ない状況であった。原油価格についても今後、価格状況において不安定な状況が続いており、値上げ傾向にある。
		スポーツ用品	平成30年のインターハイ、33年の国体に向けて三重県の各行政が動き始めてきた。まだまだビジネスチャンスとはならないが、大きな建物では無く、その中に入れる器具等などは関係がある物件が出てくると思われるので、他業界に取られることなく、また組合員仲間同士でも争いを行わないようにしたい。

非製造業	商店街	熊野	今年のゴールデンウィークは日並びの悪さも影響して前半は少なく5月の連休に集中、高速道路延伸化の効果は、この時期としては期待していたほどの成果には繋がらなかったように感じる。また、月末に駅前で開催された市主催のイベントは、今年も隣接した「いこらい市」との連携を図り、多くのお客さんで賑わった。
	サービス業	自動車整備	3月末までの駆け込み需要と4月以降の消費の落ち込み分で、現在は差引ゼロの状況となった。
		旅館	今年のゴールデンウィークは休みの並びが良くないためか、低調であった。志摩市の調査では、観光施設は前年比11.2%減、宿泊施設は16.2%減で、志摩市全体では12.2%減であった。志摩市に限らず他の地域も低調のようであった。GW明けからは個人消費の低迷による影響か、個人客が減少し、団体客はあまり変わらないようであるが、夏休み頃までこのような状況が続くように思われる。
		旅行	売上は前年同月比70%程度であり、5月はゴールデンウィークがあったにもかかわらず年々売り上げは減少している。やはりインターネット申し込みが増えているため、これに対応していない中小業者は毎月厳しい状況である。
		飲食業	社会環境の急激な変化は著しく、大都市部では大手外食チェーン店等で人手不足に陥り営業にも影響が生じており、休業する店舗も出始めている。中小飲食業ではこのような背景が現在のところ見られないものの、今後人手不足を解消するよう対応していかなければならない。地方都市においても中小飲食店の経営環境の改善、消費の拡大が望まれている。
		警備業	4月5月と発注が遅く、業界としては少々不調である。
	建設業	内装工事業	4月に続く需要の大幅な減少により、前年同月比はかなり減少している。消費税増税の影響がまともに出てきており、非常に厳しい状況である。
		水道工事業(四日市)	特に大きな変動も無く推移している。
	運輸業	トラック	燃料価格高騰が止まらず、経営環境は極めて厳しい。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
製造業	四日市	中小企業に対する支援を一層充実するべく、諸々の施策の実行を期待する。
製造業	伊勢	設備投資の実施に際して補助金申請や優遇税制を受けるにあたり、申請手続きをもう少し簡略化してほしい。
サービス業	旅館	電気料金、燃料費の値上がりで収益を大きく圧迫している。省エネ関係機器の設置費に対する国県の補助金、助成金についてご教授願いたい。
運輸業	トラック	国に対する燃料高騰対策を要望する。